

ひゅ〜まん

秋田県北部男女共同参画センター

開館時間

平日 9:00~18:00

土日 9:00~17:00

休館日

木曜日・祝日・12/29~1/3他

地域で活躍する人材の育成に関する研修会 in 鹿角

2024.11.8(金)18:15-
鹿角市文化の杜交流館「コモッセ」



鹿角市と北部男女共同参画センターが共同で実施した「地域づくりリーダー研修会」。講師には加賀谷七重さん（エンパワーメントWith 代表/あきたF・F推進員）を迎え、講演「自治会活動は女性の参画が“鍵”～見える化、繋がり、巻き込み力～」を行いました。会場に集まったのは自治会長を中心とした48名。男女が参画する自治会運営について考えました。

加賀谷さんは冒頭で「これまでやったことがない役割を任せられたら皆さんはどう感じますか？」と男性の参加者に質問。男性たちからは「不安を感じる」「出来るかわからないから断る」等の答えが出ました。これに対し、加賀谷さんは女性たちも同じ気持ちではないだろうか。急に男性ばかりの自治会役員会で、役員をやってほしいと言われても、正直不安。どうしたらその不安を解消できるか一緒に考えてください。と、参画へのハードルについて自

分事として考えてもらえる投げかけでした。多くの人がコミュニティに求めるものは①良好な人間関係②寛容さ③信頼感がある④ある程度不自由なく暮らせる経済力⑤自分に適した生き方が出来る自由。を挙げると、コミュニティのあるべき姿を共有しました。

また、コミュニケーションにおける同意について触れ、「俺が決めたから、ついてこい！」に対して“YES”と従うだけでは同意とは言わない。自分の意思を伝え、相手の意思を尊重し、方向性を確認したうえで、納得して選択できることが大切。

リーダーとして、これまでのやり方に対して、一旦立ち止まって考えてみる、周囲の声を聞いてみる、少しでも行動に移してみるを実践してほしい。「変化は勝手には起こらない。必ずきっかけがある。」そのきっかけ作りを始めてみましょう。と、住民が幸せに安心して過ごせる自治会を維持したいと願う参加者たちにエールを送りました。



スタッフメモ

アンケートの「意思決定の場に女性は必要？」との問いに対して、80%の参加者が必要と答えており、共に地域を作っていく意識の高さを感じました。自由記述でも、多様な意見や考えを取り入れることが必要だからという声が多くみられました。今回、鹿角市さんと共に事業を行う中で、自治会長たちの意識改革は着実に進んできた印象を受けました。

3月8日は国際女性デー

国際女性デーと聞いてどんなイメージがあるでしょうか？意外とみんな違う答えが出てきそうです。今一度おさらいしてみましょう。1904年、ニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、国連によって1975年に3月8日を「国際女性デー（International Women's Day）」として制定されました。国によって趣旨が微妙に変化をしているようですが、ここまで進んできたジェンダー平等の推進や女性の権利を守るための行動について称賛し、まだ山積する諸課題について想いを馳せる日が共通ではないかと思えます。その中で、男性から女性へ、女性同士で、労うためにミモザの花や、プレゼントを贈ったりするようになったようです。

「次世代を育てる教育者のつどい」

2024.12.7(土)
北部男女共同参画センター

皆さんは生まれてから一番最初に出会う「リーダー的存在」はどんな人を想像するでしょうか？父親？母親？先生もその中の一人ではないでしょうか？先生になりたいと憧れる子供もいるでしょう。

今回は、保育園、小学校・中学校・高校・支援学校と別々の場所で日頃子ども達と接する方々に集まって頂き、情報交換をしながら交流を深めるイベントを企画しました。コーディネーターの北部男女共同参画センターの松坂憲男センター長が用意したトークテーマに沿って話をしました。センター長からは、現在の秋田県の児童数や教員の男女比、管理職の女性の割合などを紹介しながら、教育現場の現状を共有しました。



日頃、顔を合わせることがない先生たちが、それぞれの教育にかける想いや、子ども達への愛を語ってくれて、悩みながらも子ども達を引率するリーダーシップ像を共有することができました。

普段から男女共同参画（ジェンダー平等）を意識することはありますか？

- ・ 男の子、女の子と括らないように声掛けしている
- ・ 幼少期には、異性や他者との身体や成長の違いを知ること大事にしたい

仕事とプライベートのバランスはとれている？

残業することが良い教員という風潮があるが、それが変わっていくように、仕事の量を考え、残業しないようにこっそり行動してます！

あとがきでもないちょっと一息

自分は自己肯定感についてどのくらい理解しているだろう？ざっくりと、今の自分をOK！と肯定できること。その人が、その人らしく自信を持って生きていくために、とても重要なバロメーターとも言えます。

文部科学省の調査によると日本の高校生の自己肯定感、他国と比べて低い傾向があることがわかっています。自分の能力を認められず、自信をもてないのは、裏を返すと、謙虚で協調性がある自己犠牲の精神がある“良い人”にも見えないでしょうか。

インターネット上には自己肯定感チェックリストというものも存在するため、是非やってみてください。自分のことを見つめ直す機会にもなるし、今の自分の状態を客観的に見ることになります。

本屋にいけば生きづらさを抜け出すための本はたくさん並んでいるのに、悩みの尽きない現代人。自己を分析したり、行動や言動を振り返るには、あまりにも忙しすぎるのではないのでしょうか。そんな多忙な現代人のために、AIなどの進化により、今日の心のコンディションを可視化できたら、人は少し悩まずに済む？逆に、数字にこだわってしまい人間らしさが失われてしまう？

自己肯定感の高さは、自分だけではなく、他者との関わり方にも大きな影響を及ぼすとされており、女性活躍の施策や、少子化対策にも重要なキーワードであり、センター事業にどう反映できるかあれこれ想いを馳せるのでした。（松坂）

「女性と法律」を学ぶ

～男女共同参画の視点から～

11月2日(土)中央男女共同参画センター主催、北部・南部センターがサテライト会場として、“女性と法律”について弁護士 横手ひまわり基金法律事務所 所長の原田いづみさんを講師に迎え、過去を振り返り、知らない事を学び、考える時間としました。

日本で女性として初めて弁護士、判事、裁判所長を務めた三淵嘉子をモデルにしたテレビドラマで、改めて憲法や民法について注目が集まる中、知っているようで知らない女性と法律の関係性について学びました。後半は、各会場に集まった参加者でワークショップを実施。自分にとって苗字とは？選択的夫婦別姓制度について意見交換する時間となりました。



○過去を振り返ってみて○

結婚当時は夫の姓になることに違和感はなかった。周囲や社会で“普通”だったし、憲法の「どちらかの姓を選ぶ」ということすら知らなかった。振り返れば、苗字に慣れるまでは少し寂しさを感じていた。

みんなの当たり前は自分の当たり前？ ～身近にある「はて？」を探そう～

2024.12.8(日)
小坂鉦山事務所 2階交流ホール

12月8日北鹿地域では前日に雪が積もり、会場に向かうまでの道は、あたり一面銀世界でした。小坂町とあきたF・F推進員との話し合いの中で、近年、様々なメディアで目にする機会が増えた「アンコンシャス・バイアス」や、身近にある「はて？」について考えたいというアイデアから生まれた企画。講師はあきたF・F推進員としても活動する、秋田県北部男女共同参画センター センター長の松坂憲男が務めました。



法整備は進んできたが、人の心はどうだろう？

男女共同参画の歴史を振り返りつつ、ジェンダーギャップが解消されているとは言えない地域の状況について、参加者の声と共に、なぜ解消にいたらないのか「無意識の思い込み」を視点を考えました。

なぜ、無意識のことを意識しないとイケないでしょうか。女性だから〇〇しなさい、男性だから〇〇が普通。この決めつけや思い込みで喋ってしまう言葉や、とっさの行動によって、自分や誰かの行動を制限したり、活躍のチャンスを奪っている可能性があることが問題。

Q 自分に当てはまるものはあるでしょうか？

ステレオタイプ

多くの人に浸透している先入観や固定観念のこと。

同調性バイアス

判断を迷った時に「集団の意見に合わせる」という行動をとってしまう。

他にも、権威性バイアス、生存者バイアス、後知恵バイアス、希少性バイアス等があります。詳しくはネット検索してみてください

確認バイアス

自分が既に持っている先入観や仮説を肯定するために、自分にとって都合のいい情報ばかり集めてしまう心理。

正常性バイアス

日常的に起こりえないような事態が発生しても、正常な範囲内とし「私は大丈夫」と冷静さを保とうとする心理。

企業や組織の中でアンコンシャスバイアスが横行してしまうと、その場の空気もギスギスしてくるかも。活躍しようと思う意欲が低下する人が出てきて、最終的には離れる人も出てくるかもしれません。みんなで考えていきたいですね。

「居場所」について考えを巡らす日々

1月18日、あきた芸術劇場ミルハスで女性活躍推進プロジェクト「ラウンドテーブル」講演会があり、コラムニスト・ラジオパーソナリティのジェーン・スー氏（以降、スー氏）を講師に招き「私の居場所と私らしさ」という演題での講演がありました。会場となった中ホールには500名の方が詰め掛け、多くの女性たちが参加していました。スー氏は大きな拍手の中、ボリュームなスパイラルパーマにミントグリーンが印象的ないで立ちで颯爽と登場。明るく、テンポの良い軽快なトークに、参加者は笑ったり、頷いたり、メモしたりとあっという間の2時間となりました。

今回の講演テーマである「居場所」と「私らしさ」は、よく聞く言葉ですが、皆さんはどのように捉えているのでしょうか？これまでを振り

返って私らしくいられる居場所があったでしょうか？その時、周りには誰が、何があったでしょうか。

スー氏は、講演中何度も「安全・安心・受容」の大切さを話していました。自己受容（ありのままの自分を受け入れられること）ができなければ、他者を認めることもできない。では、自己受容できるためには、今の自分にOKを出せるような居場所が必要である。極端に暑い・寒い場所、不快な臭い、心がざわつくような場所は居場所とは呼べない。自己受容は居場所づくりからと話していました。

居場所と私らしさの関係性を深掘りしていくと、誰もが生きやすくなるヒントがあると思います。日々の生活の中で少し意識してみたいかがでしょうか？

居場所とは？

物理的な場所や心理的に穏やかでいられる感覚のこと

- ❃ 安心できる
- ❃ 受け入れられる
- ❃ ありのままでいられる
- ❃ 必要とされていると感じる

それは自分にとってどんな場所か考えてみませんか？

センターでも 関連書籍設置中

「これでもいいのだ」
著者 ジェーン・スー
発行所 中央公論新社
発行年 2020年

「へこたれてなんかいられない」
著者 ジェーン・スー
発行所 中央公論新社
発行年 2025年

その1 団体登録の更新について

登録団体の更新の時期が近づいてきました。3月末までに更新の有無についてご連絡をお願いいたします。なお、代表者や連絡先に変更がある方、登録を解除する方などもご連絡をいただきますようお願いいたします。



その2 研修室料キャッシュレス対応

研修室の使用料支払いの際にキャッシュレス決済が可能になりました。詳しくは職員までお問い合わせください。



その3 図書の貸し出しについて

図書コーナーリニューアル中！昨年度より、フェミニズム、ジェンダー、DV関連、児童関連等、多くの書籍を寄贈いただきました。見やすく・わかりやすく・手に取りやすくするために現在レイアウト変更中です。新書なども目にとまりやすいようにレイアウトを変更しましたので、手に取ってみてくださいね！



Pick Up!

あきた とも家事

秋田県（あきた女性の活躍推進会議）では、家事や育児を家族で分担する「とも家事」を官民一体で取り組んでいくこととしています。現在キャッチコピーを募集中。詳しくは「あきたとも家事」で検索。

利用者懇談会

- 2025年2月25日(火) センター登録団体、あきたF・F推進員と共に、今年度や次年度についてなど情報交換をする場。今回はあきたF・F推進員の加賀谷七重さんにミニ講座「思い込みを生み出す脳の“動き”」を行っていただく予定です！お楽しみに！
- 13:30～15:30
- 北部男女共同参画センター

第2回 県北地区 地域連携ネットワーク会議

- 2025年3月4日(火) 県・市町村・あきたF・F推進員が一堂に会し、今年度の報告等を行います。
- 13:30～15:00 また、今年度小学6年生たちがSDGsのジェンダー平等について調査研究をした出張発表会をしていただく予定です！
- 北部男女共同参画センター

＊ハーモニープラザ相談室＊

☎相談専門ダイヤル 018-836-7846

月～土曜日 10:00～17:00まで

※木、日、祝日が休業となります

☎男性の悩み電話相談 同上

毎月第2、第4土曜 13:00-16:00

相談室は秋田県中央男女共同参画センターにあります

●団体活動カレンダー発行中●

ホームページで確認することができます

2022年 1月1日～1月31日 北部ハーモニープラザ					あきたとも家事	
日	月	火	水	木	金	土
1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7
1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14
1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28
1/29	1/30	1/31				

発行：秋田県北部男女共同参画センター
(通称：北部ハーモニープラザ)

北部男女共同参画センター

検索



〒017-0842 秋田県大館市字馬喰町48-1

☎0186-49-8552 FAX: 0186-49-8589

E-mail: anged1@io.ocn.ne.jp

